

(1) 実施機関名：

国土地理院

(2) 研究課題（または観測項目）名：

（和文）航空機SAR観測

（英文）Observation by airborne SAR

(3) 関連の深い建議の項目：

6 観測基盤と研究推進体制の整備

(1) 観測研究基盤の開発・整備

ア. 観測基盤の整備

(4) その他関連する建議の項目：

(5) 本課題の5か年の到達目標：

航空機SARを利用して、全国の活動的な火山における火口等を年間数箇所ずつ毎年観測し、噴火前後の地形情報を蓄積する。

(6) 本課題の5か年計画の概要：

全国の活動的な火山を対象に、過去の観測状況や地形変化を勘案しつつ、航空機SARによる観測を年間数箇所の周期で実施し、火口付近の地形を明らかにするとともに最新の地形情報を蓄積する。また、活発な噴火活動によって災害が発生した際には、噴火前後の地形変化を明らかにする。

(7) 令和7年度の成果の概要：

・今年度の成果の概要

全国の活動的な火山について、航空機SARによる観測を3火山で実施した。

そのうち霧島山（新燃岳）については、令和7年3月30日に噴火警戒レベルが3に引き上げられたことを受けて、「噴火時等のSAR観測・運用スキーム」に基づく航空機SAR観測の検討を開始し、令和7年5月15日に観測を行った。その後、平時（令和2年10月3日）の観測結果との比較を行い、火口付近における顕著な地形変化は見られない旨を、令和7年5月20日に「噴火時等のSAR観測・運用スキーム」及び「火山調査研究推進本部」の関係機関に情報共有した。

・「関連の深い建議の項目」の目的達成への貢献の状況と、「災害の軽減に貢献する」という目標に対する当該研究成果の位置づけと今後の展望

航空機SAR観測を行うことで、噴火前後の地形変化を明らかにするために必要な地理空間情報の蓄積に貢献した。

(8) 令和7年度の成果に関連の深いもので、令和7年度に公表された主な成果物（論文・報告書等）：

・論文・報告書等

・学会・シンポジウム等での発表

(9) 令和7年度に実施した調査・観測や開発したソフトウェア等のメタ情報：

(10) 令和8年度実施計画の概要：

全国の活動的な火山について航空機SARによって観測を実施し、火口付近の地形を明らかにするとともに最新の地形情報を蓄積する。また、活発な噴火活動によって災害が発生した際には、噴火前後の地形変化を明らかにする。

(11) 実施機関の参加者氏名または部署等名：

基本図情報部地図情報技術開発室
他機関との共同研究の有無：無

(12) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署名等：地理地殻活動研究センター 研究管理課
電話：029-864-5954
e-mail：gsi-eiss+3@gxb.mlit.go.jp
URL：https://www.gsi.go.jp

(13) この研究課題（または観測項目）の連絡担当者

氏名：坂部真一
所属：国土地理院地理地殻活動研究センター